

福井アートライン

実施計画 概要

【開催概要】

○名称

福井アートライン

Fukui Art Line

○開催期間

2023年5月3日（水）～6月4日（日） *最終日は17時まで

○会場

鯖江市内の福井鉄道の各駅

（サンドーム西駅、西鯖江、西山公園駅、水落駅、神明駅、鳥羽中駅）



○主催

福井アートライン実行委員会

○協力

福井鉄道株式会社、株式会社応用芸術研究所

○後援

福井県（申請中）

* 県民ワクワクチャレンジプランコンテスト 2023 採択事業

○web サイト

<https://fukui-artline.com/>（随時作成中）

○問い合わせ先

福井アートライン実行委員会 代表 西馬晋也

電話：080-5343-0409 mail：info@aai-b.jp

【テーマ】

「あなたとアートと鉄道と」

本事業では、公共交通の存続や北陸新幹線延伸に向けた観光的資源の脆弱さ等の地域課題について解決の糸口をさぐり実践を繰り返しながら、福井県における「アート」の多様性や視点を広げることがを目的とする。

また、アートを媒介に観光客と地域住民の関係性を生み出すことにより、福井県をもう一度訪れたいと思う気持ちを醸成することで新たな市場を創出し、地域一体となってエリアの活性化を目指す。さらにその状態が観光客を生むエンジンとして機能し、2024年の北陸新幹線延伸に向け地域の観光を担う人材育成や滞在環境を整備。域内産業や団体との連携により、経済波及効果の最大化を目指す。

【事業内容】

「6会場でのアート展示、またそれらをつなぐスタンプラリー企画。」

実施により、福井鉄道の各駅にアート作品を設置することで「駅自体」が観光的資源として認知され、駅の利用者や訪れる地域住民が増加する。それは結果的に福井鉄道の利用者増・収入増につながり、福井鉄道が県民のインフラとして存続する可能性につながる。また、利用者にとっては日頃触れることのないアート作品に触れることで感性が刺激され、美術展など県内の文化的イベントの観覧や参加者の増加につながり、文化資本の幅が広がることを目指す。

【対象者・観覧者】

福井鉄道の利用者（観光・通勤通学者・その他）。また対象地域にある各駅周辺に住む住民。

あなたとアートと鉄道と

詳細はこちらの
QRコードから
ご覧ください

スタンプラリー
開催!

2023年5月3日 wed — 2023年6月4日 sun

アート設置場所 ▶ サンドーム西駅 / 西鯖江駅 / 西山公園駅 / 水落駅 / 神明駅 / 鳥羽中駅

福井鉄道は明治45年に武岡軽便鉄道として創業し、福武電気鉄道を経て今まで紡がれてきた歴史があります。そしてこれからも福井県民の交通の要として重要な役割を担っていきましょう。
福井アートラインでは、そんな福井鉄道と協働で駅とまちをつなげ、「色々な芸術や才能があつまるところ」「色々な物が集まり交わる場所」を実現できたら...と考えています。
駅と地域が一体となった地域活性化モデルとはどのようなものなのか、まだわかりませんが、模索を続けながら取り組みを行っていきます。

主催：福井アートライン実行委員会 協力：福井鉄道株式会社、株式会社応用芸術研究所 後援：福井県 県民ワクワクチャレンジプランコンテスト2022採択事業

福井鉄道株式会社 / 応用芸術研究所
A/I APPLIED ART INSTITUTE

サンドーム西駅



【制作者】福井県立鯖江高等学校 美術部

【作品内容】駅の天井部にある筋交いに、植物や動物を模したオブジェを大量にぶら下げ、ジャングルのような設えにする。サンドーム西駅のある鯖江市船津町の自然豊かな風景を駅に取り入れることで、駅を訪れる方に驚きを与える。現在企画調整中のため、内容変更の可能性あり。

西鯖江駅



【制作者】福井アートライン 制作チーム

【作品内容】駅に併設されているギャラリーは、10年以上前に展示された写真と福鉄バスのユニフォームが長い間更新されておらず、日焼けしている。駅前の顔になるスポットをもったいなく感じ、清掃して新しい常設展示を行う。内容は、福井鉄道を愛する方々が撮影された写真、絵画、模型、その他を展示し、福井鉄道への気持ちを表現する場として機能させる。展示を見たファンの方が作品を寄贈するなど、徐々に展示が増えていくような、育つ展覧会となる予定である。

西山公園駅



【制作者】田中晴喜

【作品内容】鯖江市の人気者であるレッサーパンダの写真展を開催。さばえ Cross Art に参加した京都精華大学2年生の田中さんが、3月に10日間西山動物園に通い詰め、撮影した13匹のレッサーパンダの写真を約370枚駅構内に展示する。GWは、370枚のうち厳選した36枚を詰め合わせたポストカードの販売を行っている。さばえつつじまつりとの連動企画としても行っており、西山公園駅と西山公園での行き来が予想される。

水落駅



水落駅デザイン案 レッサーパンダ2



水落駅デザイン案 コーギー



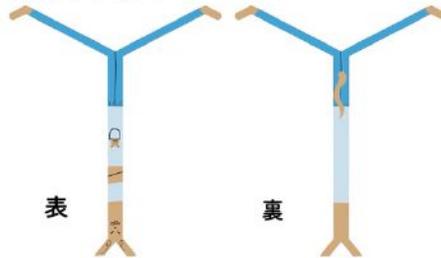
水落駅デザイン案 うさぎ



水落駅デザイン案 キリン



水落駅デザイン案 カンガルー



【制作者】 福井アートライン 制作チーム + 牧野塗装店

【作品内容】 水落駅舎の柱は、昔使用されていたレールを再利用したものを加工して使用されている。長い間、雨風にさらされて錆びついてしまった柱を、5種類の動物柄で塗装し直し、駅を訪れる方のフォトスポットになるようなアートを制作。柱に注目することで、駅舎の構造にも視点が向かう。また、柱が駅舎を支えていることと福井鉄道が市民の生活基盤を支えていることを暗に語っている。

神明駅



〈神明駅カッティングシート配置図イメージ〉

【制 作 者】 福井アートライン 制作チーム

【作品内容】 福井鉄道の利用者が感じている福井鉄道への思いを短い言葉にまとめ、駅構内の様々な場所に貼り展示を行う。展示期間中は構内に設置したホワイトボードにて来場者の言葉をさらに収集・掲示し、期間終了後におみくじのような形でまとめ、神明駅にて福井鉄道利用者の気持ちを追体験できるようにする。

展示例 1: 「乗ったあの日、働く今日。」

幼い頃に福鉄の職員さんにグッズを貰ったことがきっかけで、電車が好きになった。大きくなった今、福井鉄道に就職し、整備士をしています。

展示例 2: 「爆走する 路面電車。」

現在でも急行電車が 65km は出している。噂に聞いたところによると、昔は 100km ほど出していた運転手がいたとか…。乗り心地は悪いと言われており、まるでジェットコースターである。

鳥羽中駅



【制作者】木村鼓

【作品内容】鳥羽中駅と周辺駅の情景を切り取った「音と写真」を組み合わせた展示をすることで、その行間を味わい、鑑賞者の記憶を刺激したり、新しい情景や空間を体験することができる「otoph」を設置。同じ音と写真でも、鑑賞者によって違ったアート体験となる。